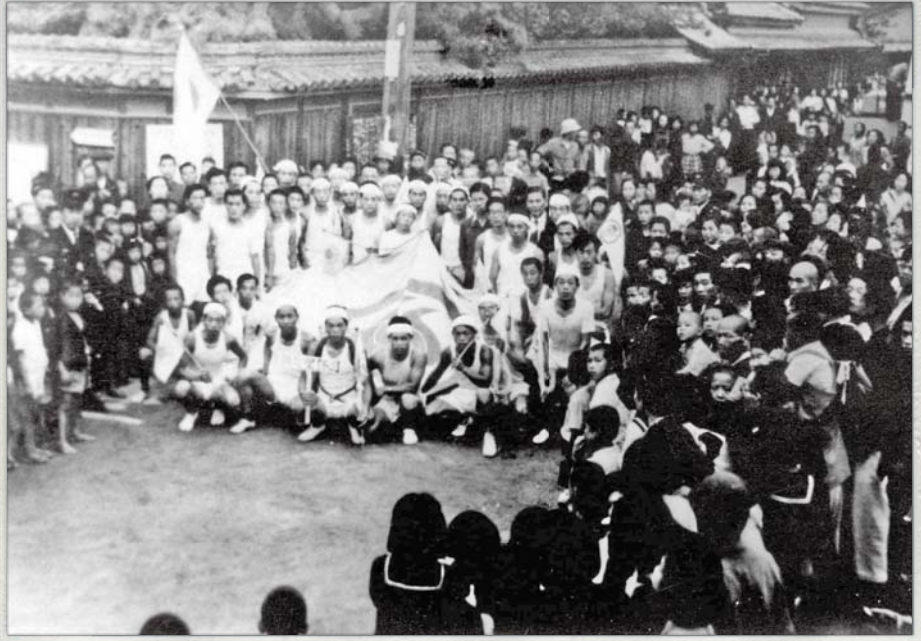




蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 60

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。

※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。【文書館 ☎63・1010】



懐かしの1枚
国民体育大会大会旗
仁尾通過記念
昭和26(1951)年 仁尾町

国民体育大会の大会旗リレーが仁尾を通過した際の写真。大会旗リレーは、第3回福岡国体より前年度の開催地から大会旗をリレーする形で行われていた。観音寺方面から走ってきて、仁尾町境目の交差点付近で記念撮影を行った際の写真。

「この写真は、国体旗が仁尾町を通ったときですね。たくさんの人たちと沿道で手を叩いて応援したのをよく覚えてます」と話すのは、当時、仁尾町に住んでいた中井良祐さん(88)。

「写真の場所は、仁尾町境目の交差点あたり。今は信号機のある交差点になっていて、奥に写っている屋敷の塀は、今でも当時の面影のまま残っています。昔の国民体育大会は、冬季、夏季、秋季の3つに分けて行われ、全国民を挙げて行うスポーツの祭典でした。子どもから年寄りまで多くの人が注目していましたね。」

中央のランニングシャツの人たちは仁尾町の青年団の人たちだったと思います。私の上の先輩も写っています。走るのが達者な人だったから、選ばされたのでしょうか。参考までに、こんな写真もありますよ」と、中井さんは一枚の写真を差し出しました。

「この写真は、彼らが走る一面面です。場所は周囲に建物が建つ前の父母ヶ浜ですね。プラカードを持つ人と、国体旗を持つ人、合わせて15人くらいでしょう。まだ舗装されていない道を観音寺市から走ってきました。仁尾で記念撮影した後、加嶺峠を通り詫間の方へ走っていった」

「思い出の1ページ」

特集記事 後記
集記事を作るとき、だいたい2週間の取材期間があります。今回は、まさにみかん尽くしでした。集中して曾保みかんのことを聞き、「どんな歴史をたどってきたか」や「なぜおいしいのか」という情報を頭に入れていきました。実際に生産者の皆さんから話を聞けるのは、すごく贅沢なこと。曾保みかんのブランドを守ろうとする、おいしさへのこだわりを感じました。畑や品種によって味が違うことも分かり、今年は例年以上に、たくさん食べる予感がします！



「終戦の翌年から始まった国民体育大会。全国民が一丸となり復興に取り組む様子が垣間見える貴重な写真です。」
「と思いますよ」



▲父母ヶ浜の沿道を走る一団